

中野区基本構想
無作為抽出区民ワークショップ
報告書

(令和元年6月2日・8日開催)

中野区

1. 実施概要

実施趣旨

中野区基本構想は、10年後に目指すべき中野のまちの姿を描くものです。中野に住むすべての人々や、中野のまちで働き、学び、活動する人々にとって、より豊かな暮らしや関わりを実現するための共通目標となります。

現在、中野区では、「中野区基本構想」の改定に取り組んでおり、新たな基本構想に、より広範な区民の声を反映するため、区民ワークショップを開催しました。

区民ワークショップは、無作為抽出した区民 2,000 人に案内を送付し、参加者を募りました。

基本構想や基本計画の策定にあたって、無作為抽出した住民を対象としてワークショップを実施することは、近年、多くの自治体で行われており、以下のような特徴があります。

- ・従来の希望性の意見交換会等には参加しなかった方にも、新たに区政に参加していただくきっかけとなる。
 - ・無作為抽出で参加者を選出することにより、より一般の区民感覚に近い意見を聴くことができる。
 - ・参加者に、地域への関心を深めてもらうことができ、地域の活性化につながる。
- 中野区でも、こうした特徴を踏まえて、区民ワークショップを実施しました。

実施結果

【第1回】6月2日(日)午後1時～午後5時

場所 中野区産業振興センター 大会議室

参加人数 男性 22 名 女性 14 名 計 36 名(10グループ)

【第2回】6月8日(土)午後1時～午後5時

場所 中野区産業振興センター 大会議室

参加人数 男性 23 名 女性 14 名 計 37 名(9グループ)

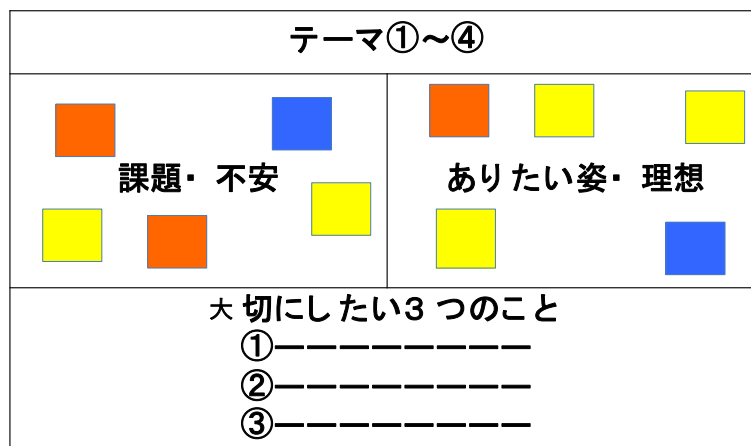
※「ワークショップの成果物としての意見のまとめ」「参加者アンケート集計結果」については別紙資料をご参照ください。

2. 実施1日目(6月2日)について

(1) 導入

はじめに、中野区基本構想担当課長から「中野区基本構想の位置付け」「基本構想の改定の考え方」「区民ワークショップの趣旨」について説明を行い、今回のワークショップの実施がなぜ必要か、どのような位置付けの場にご参加いただいたか、ということをお伝えしました。また、全体ファシリテーターから「ワークショップの進め方」「4つのテーマごとの成果物のイメージ」について説明を行い、2日間の基本的な進め方(ポストイットと模造紙を使って、個人ワークとグループワークを交互に行う)、参加者としてのどのようなアウトプットをつくっていくか(テーマごとに「課題・不安」「ありたい姿・理想」「大切にしたい3つのこと」を模造紙にまとめる)、ということをお共有しました。

4つのテーマごとの成果物のイメージ



中野区基本構想区民ワークショップ資料

8

4つのテーマは以下の通りです。

- ① 自治・共生・活力
- ② 子育て・教育
- ③ 都市・環境・防災
- ④ 健康・医療・福祉

4つのテーマごとの対話の基本的な流れは、以下の通りです。

- ① 現状・課題や中野区の取り組みについてのレクチャー
- ② テーマに関する「課題・不安・気がかりなこと」をポストイットに各自が記入(個人ワーク)
- ③ 「課題・不安・気がかりなこと」についてグループで共有・対話(グループ共有)
- ④ テーマに関する「ありたい姿・理想の未来」をポストイットに各自が記入(個人ワーク)

- ⑤ 「ありたい姿・理想」についてグループで共有・対話(グループ共有)
- ⑥ テーマにおける「大切にしたい3つのこと」の絞り込み(グループワーク)

また、各グループに1～2人の区職員が進行のサポート役(グループファシリテーター)として参加していることをお伝えして、ワークショップの仲間のひとりとしてご一緒いただきたいということをお伝えしました。

(2)参加者自己紹介

対話に入る前の一時的な信頼関係の構築のため、「わたしのライフストーリー」というテーマでグループ内での参加者自己紹介を行いました。

ポストイットの扱いに慣れていただくことも含めて、以下の4つの項目をポストイットに記入いただいて、それをもとにひとりずつ3分程度の時間をとって丁寧に自己紹介する時間をとりました。

- ① 出身地・生い立ち
- ② 中野区在住歴
- ③ マイブーム
- ④ 中野区ってこんな街

参加者のみなさんの参加意欲が高く、ポストイットを扱うことへの抵抗感も少なく、非常にスムーズに自己紹介が行われていました。



参加者の内訳

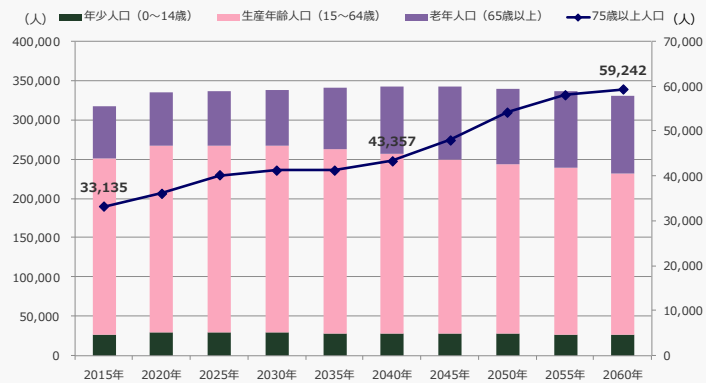
年齢	男性	女性	合計
20代	2名	1名	3名
30代	2名	4名	6名
40代	3名	2名	5名
50代	5名	2名	7名
60代	5名	2名	7名
70代	6名	3名	9名
合計	23名	14名	37名

(3) 中野区の主な特徴と取組

テーマごとの対話に入る共通の前提として、中野区全体の主な特徴と取組について、人口動態を中心に説明しました。

人口推計（年少、生産年齢、老年）（長期推計）

将来人口は、生産年齢人口が減少し、老年人口は増加すると推計される。75歳以上の人口が、概ね一貫して増え続け、2060年には約5.9万人となると推計される。



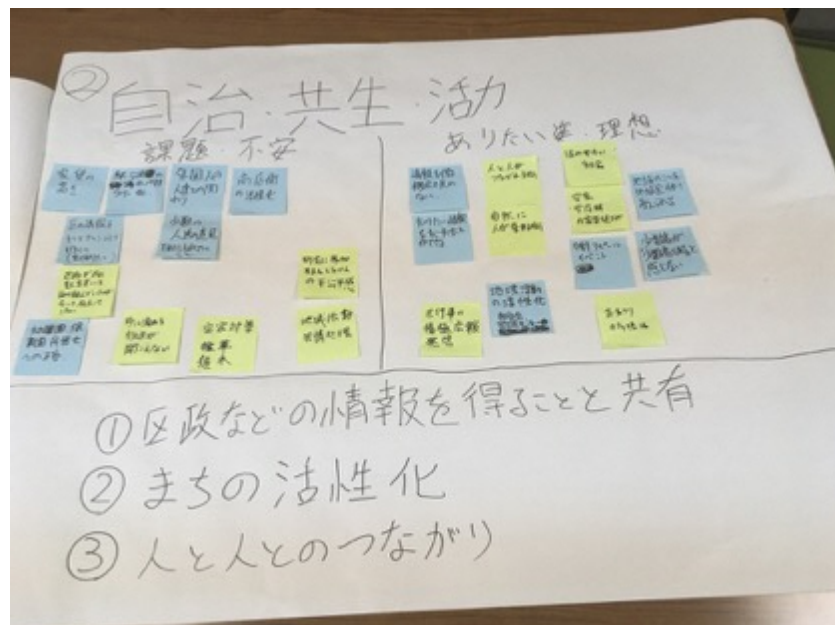
2015年は、2015年1月1日住民基本台帳人口
2020年以降は、2019年1月1日住民基本台帳人口を基準に推計

(4) 自治・共生・活力

1つめのテーマとして、自治・共生・活力について対話を行いました。はじめから非常に活発に意見が出され、会場全体が盛り上がりました。

特に以下のような意見が多く見られました(詳細は別紙資料をご参照ください)。

- 産業・駅前開発などによる活性化を望む意見
- つながりの希薄化への課題感
- 商店街活性化・空き店舗の活用への期待
- 地域の関わりやつながりにおける世代間ギャップへの課題感
- 区からの情報発信の強化・手法の多様化への期待
- 安全で歩きやすく、区内外の便が良い交通を望む意見

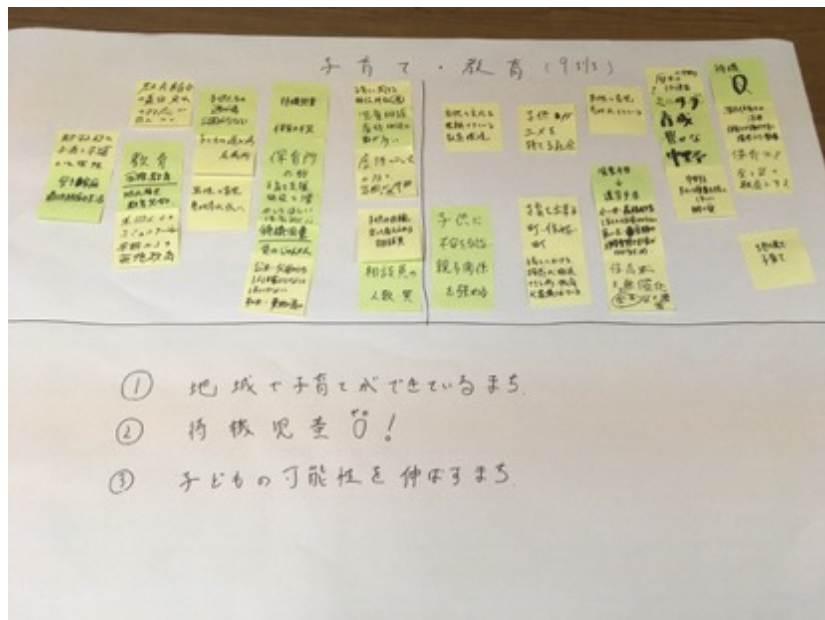


(5) 子育て・教育

1つめのテーマとして、子育て・教育について対話を行いました。多くの方が関心を寄せるテーマということもあり、様々な意見が共有されました。

特に以下のような意見が多く見られました(詳細は別紙資料をご参照ください)。

- ひとりひとりの個性を伸ばし、可能性・夢を育む教育を理想像とする意見
- 地域でのつながりの希薄化への問題意識
- 保育施設の増加、待機児童の解消、保育士の待遇改善への問題意識
- 子どもが自由にのびのびと遊べる公園などの居場所の必要性
- 子どもの交通事故への不安感・危機感
- 子どもの貧困、児童虐待といった社会課題への解決についての意見



(6)全体共有

各テーブルにマイクをまわし、「2つのテーマの“大切にしたい3つのこと”」「1日を通した感想」を発表いただきました。

各グループから挙げた感想は以下の通りです。

- ①子どもが地域の雰囲気をつくる。それを大人がサポートする。そして子どもが大人になって、もっと良い地域をつくる。それが循環していけば素敵な中野になる。
- ②中野区はサブカルのまちというような表面的なイメージしか持っていなかったが、暮らしやすいまちでもあるということが実感できた。これからはなるべく住み続けたい。
- ③いろいろな人が住んでいる中野。誰にとってもそれぞれ暮らしやすいまちになると良い。
- ④中野区に言いたいことがあって来たというよりは、こういう場にどんな人が参加するか興味があった。楽しく話ができ、また地域に関わっていきたいと思えた。
- ⑤普段は子育てしていて自宅にいるが、これだけ大勢の人と接する機会が少ない。緊張もあったが、勉強にもなって、参加してよかった。
- ⑥地域の活動に興味があってもきっかけがないという人が多かった。私は職員だが、区からの情報発信ももっと的を絞るなど工夫が必要だと思った。
- ⑦世代が変われば、同じことに対しても異なる意見が出てくる。いろいろな意見をまとめながら同時に考えていかないと、課題の解決は難しい。
- ⑧(区職員)中野区の課題としてかなり共通したものがあがってきて、そういったものが重点的に解決していくべきものだと思えた。
- ⑨今日が誕生日。素敵なみなさんと過ごせてうれしかった。
- ⑩(区職員)テーマを横断するような話がかなりあった。多様な区民の方々と対話ができ、楽しかった。

3. 実施2日目(6月8日)について

(1) 導入

1日目と同じくワークショップの目的・位置付けや進め方・成果物についてご説明し、1日目の成果物・意見のまとめを紹介し、簡単なふり返りを行いました。

(2) 参加者自己紹介

1日目からはグループを変更したこともあり、改めて「わたしのライフストーリー」というテーマでグループ内での参加者自己紹介を行いました。1日目からは③の項目を変更しました。

- ① 出身地・生い立ち
- ② 中野区在住歴
- ③ 最近びっくりしたこと
- ④ 中野区野区ってこんな街

1日目の参加者は全員が出席されたこともあり、みなさんにとっても慣れが生まれ、さらに活発にスムーズな信頼関係構築ができていました。

(3) 都市・環境・防災

1つめのテーマとして、都市・環境・防災について対話を行いました。区からのレクチャーによって空き家や木造住宅の密集といった課題への意識が高まったこともあり、生活者としての様々な問題意識が挙げられていました。

特に以下のような意見が多く見られました(詳細は別紙資料をご参照ください)。

- 若い世代を呼び込むまちづくりを目指す意見
- 子育て世帯を増やす方向性を望む意見
- 個人商店の閉店への危機感
- 空き家への関心・危機感
- ゴミ問題の改善を望む意見
- 公園の少なさや質への問題意識
- 道路の狭さへの問題意識
- 住宅密集、木造住宅、避難所、防災訓練、要支援者への配慮などへの課題感

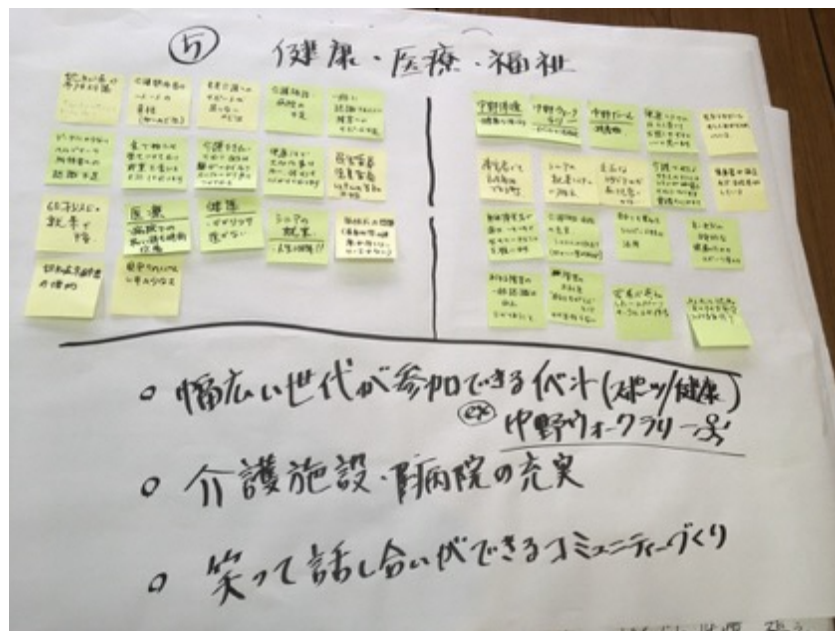


(4)健康・医療・福祉

4つめのテーマとして、健康・医療・福祉について対話を行いました。誰にとっても身近で不安のあるテーマであることもあり、当事者感覚での多くの不安や期待が挙げられました。

特に以下のような意見が多く見られました(詳細は別紙資料をご参照ください)。

- 見守りや活動の担い手不足・高齢化への懸念
- 社会参加・つながりを生み出すコミュニティ・居場所を望む意見
- 運動や食事を通じた健康づくりを促進する様々な意見
- 高齢者の単身世帯への危機感
- 認知症の知識や予防対策、家族のサポートへの不安
- 介護施設の充実・増設を望む意見
- 障害への認識・相互理解を向上させるべきという意見
- 休日・夜間・緊急時をはじめとしたい病院の充実を望む声
- 子どもの貧困や療育の対策への意見



(5) 全体共有

各テーブルにマイクをまわし、「2つのテーマの“大切にしたい3つのこと”」「1日を通した感想」を発表いただきました。

各グループから挙げた感想は以下の通りです。

- ① こういう機会でもなければ、地元の全く知らない人と話すということもなかった。とても良い機会だった。
- ② 無作為に集まった、世代も考え方も違う人たち同士で対話できたことが楽しかった。
- ③ みなさんと屈託なく話ができ、こういう機会をつくってくれた中野区に感謝したい。
- ④ (区職員) 不安な気持ちでここにきたが、区民の方と率直に話ができとても参考になった。私たちの仕事は区民のみなさんのためにあると改めて思い、これからも真剣に取り組んでいきたい。
- ⑤ (区職員) 普段仕事をしていると、特定の区民の方々との接点だけになってしまう。幅広い意見に触れたことが今後の仕事にも参考になる。
- ⑥ (区職員) いろいろな情報があっても区民の方々に届いていない、と反省するべきことがあるとわかった。
- ⑦ 日頃はどうしても自分の生活の目の前の問題しか見えないが、いろいろな視点・問題に気づくことができ勉強になった。
- ⑧ どのグループでも、空き家の問題についての話はかなり出てきた。区全体の課題だと感じたし、対策を考えるべきだと思った。
- ⑨ (区職員) ざっくばらんに区民の方々と話せて、楽しかった。

3. 2日間を通して

2日間を通して、非常にスムーズに、お互いを尊重した対等な対話が行なわれていました。

特に2日目は、さらに自由に率直に意見が出されていて、対話の質が高まっていたように見えました。話をしながら模造紙を書くために自然と立ち上がる、意見をまとめるためにグループのメンバー間で協力する、という姿がよく見られました。

アンケート結果(別紙資料をご参照ください)を見ても、参加者のみなさんにとって、「区政・地域への関心や参画意欲を高める機会」「世代や考え方の違う様々な人との対話を楽しむ機会」「区職員との心の距離を近づける機会」となっていたことがわかります。

無作為抽出での区民の対話の場をつくることが、区政・地域づくり全体への効果的な取り組みであるという気づきを得ることができました。

中野区基本構想ワークショップ
成果物（意見まとめ）

自治・共生・活力

まちづくり・魅力

産業・駅前開発などによる活性化を望む意見が多く挙がっていました。若い世代が在住定着の必要性や、文化芸術活動への関心も強く感じられました。

- ・すべて中野で完結したいと思えるまちづくり
- ・まちの活性化
- ・駅前の再開発を核に中野の魅力向上
- ・まちの魅力向上により知名度アップで人口増
- ・安心して長く住める
- ・安全・安心なまち
- ・安心して暮らせる
- ・商店街にもっと人を集める方法がないか（活性化が地域の安心にもつながる）
- ・「中野らしさ」の形成・発信

多世代・多文化共生

地域の関わりやつながりにおける世代間ギャップを埋める、多様性が共存できるまちを期待する意見が多くみられました。

- ・高齢者の方でも住みやすい
- ・若い世代へ継承していく
- ・ライフステージにあった支援

大切にしたいこと

つながり・共助・住民参加

つながりの希薄化への課題感が多く出されました。地域活動の活性化や、住民の区政参加の必要性についても多くの意見がありました。

- ・地域とのつながり
- ・人と人とのつながり
- ・近所・地域活動・ボランティア・町会とのつながり
- ・地域のつながりを増やす
- ・つながりのある街
- ・周囲の目を気にせず住める街
- ・お互いが助け合える
- ・みんなが集まれる場所
- ・地域のつながりがあるまち
- ・あいさつがあふれるまち
- ・ゴミ問題から見える共生のあり方

情報発信・共有

区からの情報発信の強化・手法の多様化への期待が多く挙げられました。

- ・区政などの情報を得ることと共有
- ・情報は欲しい人へ早く届ける
- ・地域のつながりを生むための発信

商店

商店街活性化・空き店舗の活用への期待が多く挙げられました。

施設

既存施設や中野サンプラザの活用のほか、文化・スポーツ施設を求める意見が多く出ました。

- ・既存施設・廃校・空き店舗の再活用

交通・住居

安全で歩きやすく、区内外の便が良い交通を望む意見が多く見られました。また、家賃の高さへの懸念も挙げられていました。

- ・安全でバリアフリーな道路
- ・歩行者にやさしい街
- ・区内のどのエリアでも一定の利便性を確保
- ・働くのに便利
- ・散歩道の充実

自治・共生・活力

まちづくり・魅力

- ・ 商店・産業・企業の誘致（２）
- ・ 商店産業活性化と駅前整備
- ・ 文化・芸術活動
- ・ 文化・芸術イベント・祭りの日程
- ・ 文化・芸術は駅周辺・野方にはあるが南にはない
- ・ 子育て環境の充実
- ・ 中野独特な商品・食べ物の開発
- ・ 大地震への対応（２）
- ・ 税金や国民保険料が高い
- ・ 行政サービスが必要な世帯って？
- ・ 働くのは困っていない？

環境・緑

- ・ 公園が少ない
- ・ 中野区自治基本条例があるにも関わらず平和の森公園の整備が進み貴重な緑が失われている
- ・ 環境問題への取り組みの低下

課題・不安

つながり・共助・住民参加

- ・ 地域のつながりの希薄化（５）
- ・ つながりのきっかけがない
- ・ 長く住む人と短く住む人とのつながり
- ・ 地域の活動に参加する人が少ない
- ・ 単身者のつながりが薄い
- ・ マンションの乱立でつながりがうすい
- ・ ご近所のコミュニケーションの場が少ない（２）
- ・ ご近所付き合いの仕方がわからない
- ・ すでにできているコミュニティに入りにくい
- ・ ゴミ問題
- ・ 自治会の高齢化
- ・ 町会に参加する人しない人の不公平感
- ・ 地域活動の苦情処理
- ・ 小学校登校前・下校後の居場所
- ・ 何か活動しようとする時に平日昼に空いてないと申し込みできない
- ・ 自治会での新しい世代へのバトンタッチができていない
- ・ 住民参加型WSの積極的な取り組みを増やしてほしい
- ・ 少数の人たちの意見を取り入れていくこと
- ・ 地域自治というが共助・公助・自助の役割分担と連携
- ・ 対話の場

情報発信・共有

- ・ 区の情報をもっとプッシュしてほしい・受け取りたい（３）
- ・ 区政が何に重点を置いているのかいまひとつ伝わってこない
- ・ HP・SNSの見せ方が他区より劣る
- ・ 区のHP、申請・手続関連が不親切・わかりにくい
- ・ 中野区報
- ・ 町にながれる放送が聞こえない
- ・ 緊急放送が聞き取れない
- ・ 今回初めて区の情報への関心を持った
- ・ スタンド付きの広報板
- ・ 地域のイベントは掲示板と口コミでお知らせ
- ・ 地域と行政のつながりが希薄
- ・ 回覧は町会加入者のみ

多世代・多文化共生

- ・ 若い人の町会活動が少ない（４）
- ・ 高齢者が多く子どもが少ない（２）
- ・ 家にこもりがちな高齢者（２）
- ・ 定年後の生きがい
- ・ 子育てしにくいまち（３）
- ・ 若い単身世帯とどうつながれば？
- ・ 外国人の人たちとの関わり（２）
- ・ 外国人労働者への偏見
- ・ LGBT当事者を他人扱いしている

商店

- ・ 空き店舗の増加
- ・ 商店の賃料が高すぎてチェーン店ばかりになってきた
- ・ 商店街の減少・元気がない（３）
- ・ 商店街での買い物の仕方がわからない
- ・ 商店街に大手コンビニが増えてつまらない
- ・ 家の近所の店の少なさ

施設

- ・ 中野サンプラザの活用（２）
- ・ 学校の誘致
- ・ 各駅に区民ホールがほしい
- ・ 2000～3000のキャパの劇場がほしい
- ・ 区民活動センターに小さなホールがほしい
- ・ 区民活動センターへの区のサポートが不十分
- ・ 区民活動センターの活用をもっと自由に
- ・ 幼稚園・保育園の民営化への不安
- ・ 子どもの施設を増やしてほしい
- ・ 施設の老朽化

交通・住居

- ・ 南北の交通の便が悪い
- ・ 交通事故
- ・ 住環境改善（狭い道など）
- ・ 区としてのつながり（特に南北方向）
- ・ バス通りが混雑して危険
- ・ 商店街の人が多すぎて、歩くのが大変
- ・ 沼袋駅の地下化を早くしてほしい
- ・ 子どもの安全
- ・ 空き家問題（２）
- ・ 家賃の高さ（３）
- ・ 民泊問題（騒音・ゴミ）

自治・共生・活力

ありたい姿・理想

まちづくり・魅力

- ・すべて中野で完結
- ・中野と言えばをつくる
- ・まちの魅力向上による人口増
- ・働く場所・住む場所が両方ある
- ・長く住み続けられる
- ・若い世代の在住定着（3）
- ・中野アピールイベント
- ・文化・サブカルでアピール
- ・中野駅周辺さらに開発でブランド力向上（3）
- ・地域の祭りの多様化（2）
- ・もみじ山文化センターで映画鑑賞
- ・ほめやすい社会
- ・保・幼・小・中セットが良い
- ・古地図作成
- ・災害に強いまちづくり（2）
- ・簡単に健康面を相談できる場
- ・安い健康診断ができるように

環境・緑

- ・小中学校での環境教育
- ・緑豊かなまち
- ・緑地帯の配置
- ・ゴミ処理（プラゴミゼロ、コンポスト）

つながり・共助・住民参加

- ・人と人がつながれるまち（3）
- ・あいさつのあるまち（3）
- ・安心して近所の人に頼みごとができる
- ・地域で困りごとを共有できている
- ・地域のつながりの再生
- ・自然に人が集まるまち
- ・災害時に助け合えるコミュニティ
- ・みんなで楽しめる場をつくりたい
- ・地域活動の活性化（3）
- ・地域活動後継者不足の解消
- ・町会・自治会が若者へ受け継がれる
- ・地域の誰もが参加し楽しめる活動
- ・地域のことを地域全体で考えられる
- ・区役所職員と住民の距離が近い
- ・中野でどんなことが話題になっているか区議会に傍聴になっていくのも必要
- ・住民全員参加型イベント

情報発信・共有

- ・情報発信力向上
- ・情報を得る機会を失わない
- ・知りたい情報をすぐ知ることができる
- ・情報交換のために人が集まる場所
- ・区行事の積極広報発信
- ・新中野区役所をPR
- ・WIFIの活用

多世代・多文化共生

- ・自分と違う人への思いやりある生活
- ・どんな世代も過ごせる・遊べる
- ・様々な背景を持つ人が住みやすい
- ・高齢者のパワーの活用
- ・高齢者食堂
- ・年齢問わず区民が交流している
- ・若い世代が活躍できる
- ・若い人が周囲の目を気にせず住める
- ・子育てしやすい・楽しい（3）
- ・まち全体に目が行き届いた子どもの住みやすい街
- ・少数者が「少数者である」と感じない
- ・外国籍の人たちとの交流
- ・外国人児童への教育
- ・多言語表示
- ・多言語対応の接待センターの設置
- ・外国人や単身者のマナー向上

商店

- ・個性・活気・元気ある商店街（2）
- ・空き店舗貸してくれればいいのに
- ・空き店舗を活用したコミュニティスペース
- ・空き家・空き店舗の家賃値下げ
- ・夜遅く帰ってきてても安心して入れる飲食店
- ・ショッピングモール
- ・個性のある店の誘致
- ・家庭配達販売店がほしい

施設

- ・サンプラザの活用
- ・小中学校をコミュニティ活動拠点に再整備
- ・小中学校統合による廃校の再活用
- ・簡単な運動場がほしい
- ・スポーツ・文化施設の充実

交通・住居

- ・都市計画道路を早く実現させる
- ・バリアフリー
- ・危険な場所の交通整備
- ・南北を移動できる電車・地下鉄
- ・人と車の流れが分けられて便利な街
- ・通学路へのガードレール設置
- ・散歩道・サイクリングロードの充実（2）
- ・自動車専用レーンで歩道を安心して
- ・道に椅子設置
- ・一人暮らしがしやすい
- ・学校まわりの子育て物件
- ・転入者を歓迎できる地域・商店街

子育て・教育

教育・育成

ひとりひとりの個性を伸ばし、可能性・夢を育む教育を理想とする意見が多くに共通していました。一方で、教育関係者の負担、教育格差、支援が必要な児童への教育への懸念も挙がりました。

- ・ 一人一人の可能性を伸ばせる教育
- ・ 子どもの可能性を伸ばすまち
- ・ 子どもが生き生きと夢を持って生活できる
- ・ 魅力的な教育・多様な選択肢の提供
- ・ 気軽にスポーツができる環境
- ・ 教育関係者の負担減

地域と子ども・親とのつながり

地域でのつながりの希薄化への問題意識が多くみられました。親子ともに地域のイベントに参加するなど、地域で子育てする姿が望まれていました。

- ・ 子育てを地域で見守る
- ・ 地域と子どものつながりがある
- ・ 地域で子育てができているまち

大切にしたいこと

保育・子育てする親への支援

保育施設の増加、待機児童の解消、保育士の待遇改善への問題意識が多く挙がりました。親、あるいは子どもがほしい人への多角的なサポートが求められていました。

- ・ 保育施設の増加
- ・ 待機児童ゼロ
- ・ 子育てする親への支援
- ・ 子育てに必要な情報がきちんと発信され、受け取れる
- ・ 子育てサービス施設の十分な整備
- ・ 子どもがほしい人が増える
- ・ 時代に合った子育て
- ・ 支えたい・支えてほしい人材のマッチング
- ・ 中野で子育てすることがメリットになる仕組み

地域の遊び場・居場所

子どもが自由にのびのびと遊べる公園などの居場所の必要性が多く挙がりました。そういった場所が少ない、減っていることへの問題意識が見られました。

- ・ 子どもがのびのびと自由に遊べる
- ・ 子どもが地域で遊んでいる・笑い声がする
- ・ 親子で交流する機会を増やす
- ・ 公園を活用した地域交流イベント
- ・ 空きスペースの活用
- ・ 公園・芝生広場の充実

安心・安全

子どもの交通事故への不安感・危機感が強くみられました。

- ・ 子どもが安心して過ごせるまち
- ・ 子どもが安心して過ごせる居場所がある
- ・ 通学路の安全確保・見守りの工夫
- ・ 子どもの安全が確保されている

貧困・課題

子どもの貧困、児童虐待といった社会課題への解決についての意見が多く挙がりました。

- ・ 子どもの貧困対策
- ・ 子ども食堂がたくさんある
- ・ 経済状況に関わらず、教育の質が保たれる

子育て・教育

教育・育成

- ・公立小中学校の減少（2）
- ・発達障害の子どものためのICT活用
- ・ICT教育は必要か？
- ・先生が大変すぎる（2）
- ・先生と子どものコミュニケーション
- ・子どもひとりひとりへの気配り
- ・教員の質
- ・教育機会の格差
- ・クラスの中での学力のちがい
- ・特別な配慮が必要な子どもへの支援
- ・外国人への日本語教育支援（2）
- ・早期からの英語教育
- ・地元の歴史教育の欠如

地域と子ども・親とのつながり

- ・地域とのつながりの希薄化（3）
- ・子育て支援ボランティア団体の後継者不足
- ・必要なボランティアの可視化
- ・地域の見守りができていない
- ・転入者が多いので地域で子どもを把握しきれているか
- ・子どもと顔の見える関係性づくり

課題・不安

保育・子育てする親への支援

- ・待機児童の問題（7）
- ・働く女性のための学童・保育園の拡充（6）
- ・保育士不足・待遇（3）
- ・保育園の質
- ・運動施設のある保育園・幼稚園の増設
- ・正規・非正規の差で保育園に入れない
- ・子育ての拠点不足
- ・学童に入れなかった場合のサポート
- ・一時保育の利用ができない（欠員待ち数ヶ月）
- ・子育て世代が定住しない
- ・中野区に子育てしやすいというイメージがない
- ・親の負担が大きいことが少子化の原因
- ・子どもの生活・人生が親次第だと不安
- ・不安なこと・悩みを相談したい（3）
- ・保育園建設に反対する人たちへの対応
- ・子どもに接する時間の少なさ
- ・保育園が北部に多く南部に少ない
- ・児童館ってなんだろう？
- ・世帯の種類に応じた子育てのモデルケースがある
といい
- ・男性の育児参加率が低い
- ・働くことと子育ての分断
- ・育児・家事に携わる時間の差
- ・病気にかかっているとき（2）
- ・支援センターは知られているのか？
- ・療育施設を増やす
- ・子連れで動きやすい移動手段が少ない

地域の遊び場・居場所

- ・子どもが遊べる公園・放課後の場所がない（5）
- ・どんどん危なくないし面白くない遊具だけの公園に
- ・広い公園がない
- ・子どもの遊び場所の確保
- ・公園のボール遊び禁止
- ・公園が不整備・汚くて遊ばせられない
- ・夜でも子どもがいられる場所
- ・中高生の過ごせる場所が少ない

安心・安全

- ・小学生の登下校が不安（6）
- ・歩道が狭くベビーカーが通りにくい
- ・交通事故の防止
- ・地域で守る

貧困・課題

- ・児童虐待への不安（6）
- ・児童相談の対応は行き届いているのか？
- ・児童相談がしやすくてできるように
- ・相談員の人数・質（2）
- ・いじめの早期発見
- ・貧困家庭への支援（3）
- ・ひとり親家庭への支援（2）
- ・外国人の親子への対応

子育て・教育

教育・育成

- ・子どもが自分の未来・夢を自由に描ける（3）
- ・好きなこと・やりたいことが見つけやすい教育
- ・好きなことを仕事に（3）
- ・特徴を伸ばす教育
- ・コミュニケーション能力の育成
- ・広い心の人間性を育む
- ・教育・保育の無償化・費用低減（4）
- ・ICT教育の普及に力を入れる
- ・勉強・運動が苦手な子も楽しめる
- ・ひとりひとりの子どもに応じた教育の充実
- ・魅力的な私立校
- ・マナーの教育
- ・外国人児童への日本語教育支援（2）
- ・自他の文化を理解できる教育
- ・中野の歴史の伝達者・ミニリーダー育成

地域と子ども・親とのつながり

- ・子どもの声が聞こえる社会
- ・声かけをしても疑われない（2）
- ・地域の力で子育てに取り組む（3）
- ・時間のある人が他人の子どもに関われるようにする
- ・地域のイベントへの親子の参加を増やす（2）
- ・子どもは国全体で育てる意識
- ・ボランティア団体と区の役割明確化
- ・10年後に「あいつ今なにしてる」がわかるつながりづくり

ありがたい姿・理想

保育・子育てする親への支援

- ・保育園の増設・待機児童解消（4）
- ・保育所の公営化（2）
- ・保育士が働きやすい環境づくり・待遇改善（2）
- ・親が子育てが楽しいと感じている
- ・子どもがほしい人が増える
- ・子育てできるまち・住みたいまち
- ・子育て世帯への補助
- ・親に対する教育支援施設
- ・子育てに必要な情報がすぐに手に入る（2）
- ・子育て支援施設の充実（4）
- ・施設を増やせば良いというわけではない
- ・子育ての不安が相談できる場所・機会
- ・少子化で空いた教室の活用（2）
- ・親子同士で交流する機会を増やす（2）
- ・男性の育児参加
- ・パパ同士のつながりの強化
- ・自宅以外に居場所とか面倒を見てもらえるところがあるといい
- ・支援する側の多様性
- ・常識の変化・時代にあった育て方（2）
- ・窓口の充実
- ・広報（支援、補助、イベント）
- ・事例の紹介
- ・家庭内の子どもとの会話時間を増やす
- ・子どもが親にありがたうと言えるように
- ・親子の関係性を強める
- ・子育ての時に受けた恩恵を子どもに語れる

地域の遊び場・居場所

- ・遊び場の拡充（4）
- ・小中高生が誰でも遊べる環境づくり
- ・子どもが安心して過ごせる場所を増やす
- ・子どもがのびのび遊べて学べる
- ・中高生が過ごしたくなる場所の充実
- ・スポーツができる環境づくり
- ・公園を増やす
- ・遊具より緑と芝生の公園を増やす（2）
- ・公園のつくり方を杉並区から学ぶ

安心・安全

- ・安全な登下校
- ・バリアフリー
- ・防犯カメラの設置

貧困・課題

- ・児童虐待なし
- ・児童保護条例の制定
- ・生活困難家庭への支援
- ・負担の少ない奨学金制度
- ・子どもの権利を守る条例をつくる
- ・いじめを防止する環境づくり

都市・環境・防災

都市計画・まちづくり

若い世代を呼び込むまちづくりを目指す意見が多く、また、区民と行政間のコミュニケーション、地域のネットワークの活性化、外国人をはじめとした多様性豊かなまちを望む声も多く挙がりました。

- ・若者に魅力的なまち中野
- ・区民～区民、区民～行政のコミュニケーション
- ・区～区民の情報共有が密にできている
- ・地域ネットワークの強化
- ・外国人や地域住民とのコミュニティ

人口動態・子育て世帯

特に子育て世帯を増やす方向性を望む意見が多く見られました。

- ・子育て世帯誘致
- ・子育て世帯が住みやすい中野

商店

個人商店の閉店への危機感が多く挙がりました。

- ・個人商店も大切に元気なまちへ

大切にしたいこと

空き家・住居

特に空き家への関心・危機感が強く現れていました。

- ・空き家の活用（2）
- ・空き家をキッズルーム・託児所に活用
- ・空き家の活用（古民家リサイクル）
- ・空き家・防犯対策のできた再開発をしている

ゴミ・環境

特にゴミ問題の改善を望む意見が多くあり、一方でCO2やエネルギーの関心も見られました。

- ・ゴミ排出に関する意識の継続
- ・ゴミの出し方を工夫してきれいなまちへ
- ・ゴミの出し方についての区の情報発信

公園・緑

公園の少なさや質への問題意識が多くあり、人が集う場・緑ある環境への期待が見られました。

- ・公共スペースの確保(公園・道路・緑)
- ・公園づくりを工夫してコミュニティの場所へ
- ・緑あふれる公園
- ・公園・川・西武跡地等の活用

道路・交通

道路の狭さへの問題意識が強くあり、安全を望む意見が多く見られました。また、中野駅周辺をはじめとした駅の混雑解消やバリアフリーについての声なども挙がっていました。

- ・道路の拡張や防災訓練の充実により安心安全に暮らせる
- ・狭い道路を改良して安心・安全、災害に強いまちへ
- ・歩行者の安全の確保

防災

災害に向けた対処や備えについて、かなり多くの意見が挙がっていました。住宅密集、木造住宅、避難所、防災訓練、要支援者への配慮などへの課題感が見られました。

- ・災害に強い街対策（2）
- ・木造密集地域の解消
- ・防災対策（備蓄・道路拡幅・炎症防止・避難所・トイレ）
- ・避難所の適切な配置

都市・環境・防災

課題・不安

都市計画・まちづくり

- ・各駅周辺のまちづくりの進捗が遅い
- ・駅前以外の再開発計画がわかりにくい
- ・西武線でまちの機能が分断されている
- ・わざわざ来たいまちではない・魅力が少
ない
- ・区のHP利用しづらい
- ・地域コミュニティの希薄化

人口動態・子育て世帯

- ・子育て世帯が少ない（3）
- ・子育て世帯が安心して遊べる場所がない
- ・単身者が多い、定住してもらえない
- ・中野区としてどんな人口構造・まちの姿
でいたいのか？子育て先進区？

商店

- ・個人商店の閉店が目立つ、寂しい街にな
る（5）
- ・商店街の減少（2）
- ・電子マネーの使える店が少ない
- ・スーパーの近くにスーパーが、ドラッグ
ストアの近くにドラッグストアができる

空き家・住居

- ・空き家が多く防災・防犯が不安（4）
- ・アパートの大家さんが近くに住んでいな
いので管理がずさん

ゴミ・環境

- ・ゴミの分別がわかりにくい（4）
- ・ゴミの出し方が悪い（2）
- ・ゴミの分別ができていないことでカラ
スの増加やご近所トラブルにつながる
- ・環境問題（CO2、ゴミ）は切実
- ・CO2排出量削減が止まっている
- ・家庭からのCO2排出、具体的に何か
- ・小中学校で環境教育の徹底、コンポ
ストの実施

公園・緑

- ・公園が少ない（2）
- ・公園が狭くて暗い、憩いの場にな
っていない、気持ち悪い、活用が
イマイチ、遊具の減少、汚い
- ・平和の森公園の300本の木が伐
採された
- ・自然や畑に触れられる場所がほし
い
- ・外が暑くなってきて室外遊びが不
安

道路・交通

- ・狭い道が多くて危なく感じる
（7）
- ・狭い道を救急車や消防車が通りに
くい（3）
- ・バス通りと商店街が一体化してい
て危険
- ・歩道が無いのに交通量が多い道路
- ・都市計画道路の事業実施が遅い、
つぎはぎだらけ
- ・歩道でのタバコ
- ・南北方向の交通網
- ・開かずの踏切が多い（2）
- ・中野駅周辺が使いづらい（2）
- ・駅のバリアフリー化（2）
- ・中野駅、遅延した際には入れない
- ・ホームドア設置を進める

防災

- ・避難場所がわかりづらい・案内が不
足している・遠い（6）
- ・避難場所が狭く収容しきれない、区
の人口に追いついていない（2）
- ・災害リスクの高さに対策必要（3）
- ・地震時の火災の危険性が高い（2）
- ・川の氾濫リスク（3）
- ・住民の防災意識が低い（2）
- ・地域の危険度は具体的に何？
- ・災害時の電源確保
- ・近隣に高齢者が増えていざと言う時
に手伝えないのでは
- ・単身世帯が災害の時に不安（2）
- ・外国人・障害者・ペットなどの避難
（2）
- ・防災訓練の参加者が少ない（2）
- ・木造住宅が多く心配（5）
- ・耐震補強の補助がない（2）
- ・備蓄している人が少ない
- ・備蓄についても学びが必要

都市・環境・防災

ありたい姿・理想

都市計画・まちづくり

- ・若い人・学生がくる活気あるまちづくり（3）
- ・子どもたちが安心して学べ、遊べるまち（2）
- ・いつでも意見を伝えられたり必要な情報をスムーズに得られるまち
- ・新しい時代の文化・流れを積極的に受け入れている
- ・アナログ・デジタルの共存
- ・区民～行政のコミュニケーションが取れるまち
- ・外国人と仲良く住めるまち（2）
- ・外国人に日本の文化・ルールを知ってもらう
- ・外国人への案内掲示増
- ・安心安全・つながり・子育てのための町会加入
- ・地域活動に家族ぐるみで参加

人口動態・子育て世帯

- ・子育て世代の定住（2）
- ・保育所を増やす（2）
- ・子どもが多く住んでいるまち
- ・親が安心して子供を預けて働ける環境づくり
- ・子ども手当・健康医療の充実
- ・保育を経験した人たちの活用
- ・世帯者アパートを増やす
- ・室内のキッズスペースを増やす
- ・社宅の誘致

商店

- ・個性的な専門店が増えている
- ・個人商店を保護
- ・商店街が元気なまち
- ・若い人が起業しやすくなっている
- ・ラーメンのまち野方
- ・地域と企業の交流
- ・シェアショップ

空き家・住居

- ・空き家の活用（4）
- ・空き家対策に向けた法改正（2）
- ・区が空き家を統一管理し活用（2）
- ・住宅密集地に防犯カメラを設置

ゴミ・環境

- ・ゴミの分別・出し方をわかりやすく情報発信（2）
- ・美しい・清潔なまち（2）
- ・ゴミ分別キッチンとしたら何かメリット（2）
- ・ゴミの量が減る
- ・ゴミの分別は現状維持してほしい
- ・街中にゴミ箱を設置
- ・環境団体への支援
- ・再生エネルギーへの補助

公園・緑

- ・子どもが遊べる広い公園（2）
- ・学校跡地を公園として活用（2）
- ・公園の増加（2）
- ・安心して集える、衛生的で緑の多い公園（2）
- ・キレイでオシャレな公園
- ・緑にあふれたまち
- ・高齢者が増えている時代なので街中に休憩する場所（ベンチを設置するなど）
- ・公園の機能向上になるベンチや花壇
- ・花壇サポーターのボランティアの仕組みづくり
- ・西武線地下化跡地を緑道に

道路・交通

- ・広く安全な歩道（6）
- ・歩行者と自転車・自動車がぶつからない（2）
- ・街全体がバリアフリーに（2）
- ・機能が整理され安全に利用できるまち
- ・安心して走れるトラック
- ・ランニング施設・シャワー
- ・中野駅前の混雑解消（2）
- ・駅ビルが併設された広い駅
- ・ミニバスの導入
- ・西武線の地下化
- ・電柱の地下化

防災

- ・住宅・木造家屋の密集地域の解消（3）
- ・空き家対策や道路の拡幅など防災のためのまちづくりができています（2）
- ・狭い道路が少なくなり、災害に強いまちへ
- ・災害が起きにくいまち
- ・安全・安心が確保できるまち
- ・河川工事・対策
- ・延焼防止のための植樹
- ・各個人の家の中もスッキリ
- ・避難施設・設備の充実（4）
- ・災害時に単身者が孤立せずに必要な支援を受けられる
- ・災害時に自宅で生活できるよう備蓄強化（2）
- ・町会ごとの備蓄ができています
- ・給水システムの完備
- ・地震に対する危険度を住民に説明するなどリスクを低減する
- ・防災イベントを多く行い、グッズなども販売
- ・定期的に防災訓練
- ・防災情報網の充実（2）
- ・災害時に高齢者・障害者を支えられるようなつながり
- ・近所の人同士が助け合える人づきあい（3）
- ・町会より小さい単位で協力が必要
- ・学校ごとの連絡網の復活

大切にしたいこと

地域包括ケア・支え合い

地域包括ケアへの関心は強く見られた一方で、見守りや活動の担い手不足・高齢化への懸念が多く挙がりました。

- ・地域の仕事を若い人にも
- ・困ったときのサポートの充実
- ・いこいの場（見守りの場）
- ・情報発信の向上

社会参加・つながり

社会参加・つながりを生み出すコミュニティ・居場所を望む意見が多く挙がりました。

- ・笑って話し合いができるコミュニティづくり
- ・みんなそれぞれ居場所があるまち
- ・参加しにくい・若い人がすくない地域のコミュニティ
- ・ひとりきりにならないようにする
- ・活動の情報や場の増加
- ・活気があり活動できる
- ・子どもから高齢者まで世代を超えた交流
- ・夢がある・叶える

健康づくり

運動や食事を通じた健康づくりを促進する様々な意見が出されました。若い時から取り組むとともに、健康寿命をのばすことへの意識が見られました。

- ・個性に合わせた健康づくりができるまち
- ・健康意識の向上
- ・まち全体で健康づくりに取り組む
- ・幅広い世代が参加できるスポーツ・健康のイベント
- ・健康づくりに向けた世代を問わない地域コミュニティ
- ・コミュニティ活動できる場所の確保（球技できる公園、体育館など）

高齢者

高齢者の単身世帯への危機感が多く共有されました。高齢者の就業、世代を超えた子どもとの交流などへの前向きな意見も多くありました。

- ・高齢者の単身世帯
- ・高齢者の施設の充実
- ・ライフワークに合わせた働き方ができるまち

認知症

認知症の知識や予防対策、家族のサポートへの不安が多く挙がりました。

- ・認知症への理解

介護

介護施設の充実・増設を望む意見が挙がっていました。

- ・介護施設の充実
- ・特養の増設
- ・特養の入居要件の見直し

障害

障害への認識・相互理解を向上させるべきという意見が多く見られました。また、障害者の就労・雇用機会、施設の充実などを望む声も挙がりました。

- ・障害者への理解
- ・障害者の施設の充実

医療

休日・夜間・緊急時をはじめとしたい病院の充実を望む声が多く挙がりました。

- ・病院の充実
- ・緊急病院の増設

子ども

子どもの貧困や療育の対策への意見が挙がりました。

地域包括ケア・支え合い

- ・ 民生委員・町会役員・児童委員・見守りなどの担い手がない・告知不十分（6）
- ・ 地域の支え合いの担い手が高齢化、次世代への引き継ぎの課題（2）
- ・ 地域の見守りへの意識（2）
- ・ 地域の担い手のひとりの負担が大きいのでは？
- ・ 地域の仕事の押し付け合いがある
- ・ 地域の仕事に若い人がこない
- ・ 近隣との連携が少ない
- ・ 興味があってもどう関わればいいのかわからない

社会参加・つながり

- ・ 高齢者の社会参加のきっかけがない（2）

健康づくり

- ・ 将来のために早い段階で健康づくりをしなくては
- ・ 運動できる場所・機会がない（6）
- ・ 球技ができない公園がほとんど
- ・ 若い世代の運動不足

高齢者

- ・ 単身の高齢者増（5）
- ・ 孤独死の問題
- ・ 一人で寂しそうなお年寄りがいる
- ・ ご近所がみんな高齢者
- ・ 高齢者の施設足りない
- ・ 老後、老人ホームに入れるのか
- ・ 高齢になった時の就業が不安（4）
- ・ いつまで働けばいいのか？
- ・ 高齢者の日常生活の中での食事の栄養バランス
- ・ 高齢者のつながり

認知症

- ・ 認知症高齢者をかかえる家族のサポートが必要（2）
- ・ 認知症への知識や対応の不足（3）
- ・ 認知症の予防対策（2）
- ・ 認知症高齢者の増加
- ・ 自分が認知症になったら誰に助けを求めるのか

介護

- ・ 介護施設・特養などの不足（3）
- ・ 介護サービスの対象者の増加に対応できるのか
- ・ 介護関係者の一人一人の負担
- ・ 老老介護へのサポートの不足

障害

- ・ 障害への理解不足（3）
- ・ 障害者の就業・雇用（3）
- ・ 障害者の就職後の離職率が高い
- ・ 障害者サービスがあまり充実していない
- ・ 安易な障害認定
- ・ データに載らないヘルプマーク所持者への認識不足
- ・ 一般に認識されにくい障害へのサポート
- ・ 病気・障害を持った時どうやって暮らしていけば

医療

- ・ 休日・夜間・緊急医療の受け皿（4）
- ・ 健康診断・予防接種が必要な人はちゃんと受けてる？（2）
- ・ 独居になった時の医療・介護へのアクセス
- ・ 病院での長い待ち時間
- ・ かかりつけ医がいない
- ・ 歯の老化等の健康
- ・ 病気にかかったあとの収入

子ども

- ・ 子どもの貧困問題の対策をどうすればいいか
- ・ グレーゾーンの子どもへの支援
- ・ 子ども向け療育施設の不足

健康・福祉・医療

ありたい姿・理想

地域包括ケア・支え合い

- ・地域包括ケアの推進（２）
- ・地域包括ケアシステムと区民活動センターとの統合
- ・地域で見守りをする仕組みづくり（２）
- ・地域の見守りを意識して近隣住民とのつながりをつくる
- ・困っている人がいたら声をかけあいたい
- ・若い地域の役員の担い手が増える
- ・まちの見回りや子どもの見守りなどの仕事をうまくシニア人材に分担
- ・地域の仕事にバイト代を出す
- ・声をあげやすく届きやすい

社会参加・つながり

- ・社会参加の・活動の機会増（２）
- ・一人一人の居場所や役割がある
- ・単身者が孤立せず社会参加
- ・高齢者が参加しやすい地域活動
- ・地域活動ができるコミュニティの増加（２）
- ・地域社会への貢献
- ・区民活動センターに行きたいと思えるイベントがある
- ・地域のつながりを増やして健康寿命をのばす（２）
- ・みんなそれぞれ居場所があるまち
- ・自分から外にいろいろな人と話をする

健康づくり

- ・健康寿命の増進（４）
- ・正しい健康情報の周知
- ・若い時から健康への意識を高める
- ・一人一人がセルフケア
- ・いつまでも楽しくおいしく食事
- ・健康意識が高い人が多い中野
- ・人が元気、まちが元気
- ・ロボット・AI・ITの活用
- ・各地域に健康づくりができる場所がある
- ・食べ物に気をつける
- ・中野の特産物
- ・運動習慣の増加・定着（４）
- ・若い時からのスポーツ（３）
- ・気軽に運動できる場所
- ・体育館や地域センターを上手に活用して体を動かす
- ・地域センターなどにジムの器具を設置
- ・魅力的な散歩コースを見つける・紹介する
- ・歩数計やスタンプラリーの活用
- ・中野体操
- ・中野ウォークラリー
- ・行動範囲を広げる
- ・どんな人でも自由にまちに外出できる
- ・よく笑って話をする
- ・趣味を多くする
- ・喫煙者との共生

高齢者

- ・独居になった時に周りの人がいると安心
- ・高齢単身でも安心して暮らせる
- ・高齢者にやさしいまち
- ・長生きすることに不安がない
- ・シニアが充実した人生を送れる
- ・年齢を重ねることがポジティブに考えられる
- ・最後まで元気でいられるようなサポート
- ・シニアの就業の進化（５）
- ・シニアの就業を前向きにとらえる社会
- ・シニアも働きがいを持って働けるように
- ・見守りも兼ねたシニア人材の活用
- ・高齢者の自立を全力で支えるまち
- ・夫婦で入れる高齢者施設
- ・年金で暮らせる
- ・高齢者と子どもをつなげる（３）
- ・高齢者と子どもが尊敬しあえるまち
- ・高齢者と小学生でボードゲーム

認知症

- ・認知症対策の拡充
- ・認知症の予防対策
- ・認知症の早期発見
- ・社会で認知症の方を見守る仕組みづくり

介護

- ・特養の増加
- ・区が運営する大型デイサービス
- ・介護者の愛情あるコミュニケーション

障害

- ・障害の一般認識の向上・相互理解（３）
- ・障害のある人を自分とちがう人として壁をつくらない
- ・障害者でも続けられる職場環境
- ・障害のある人も一緒に働く
- ・障害者でも社会参加

医療

- ・医療の充実（３）
- ・高度医療が可能な病院の誘致
- ・定期検診への補助
- ・病院で働く人がさらに減ると困るのでなるべく自力で
- ・病人でも働ける社会

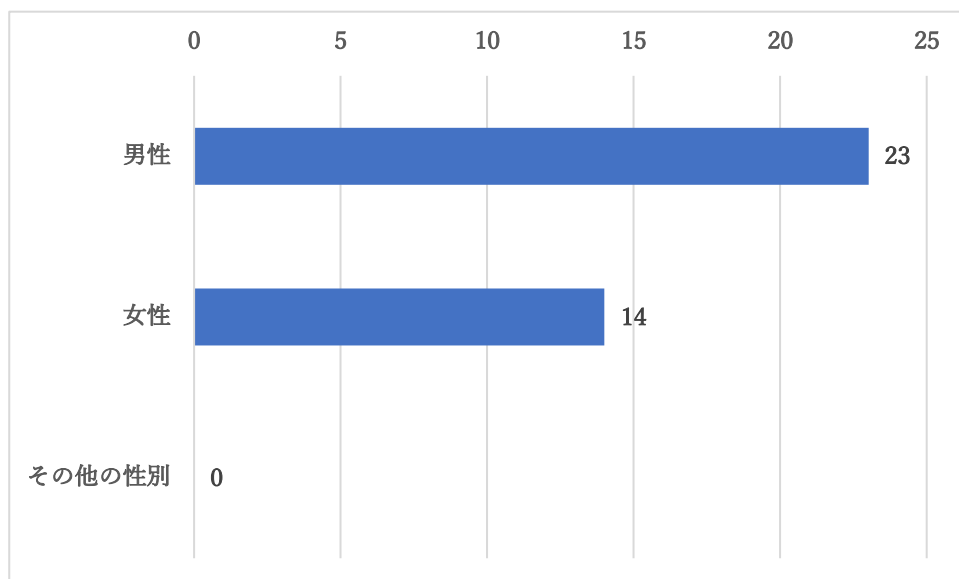
子ども

- ・子どもの貧困に対する支援の充実（子ども食堂・学習塾）
- ・保育園・学童の拡充

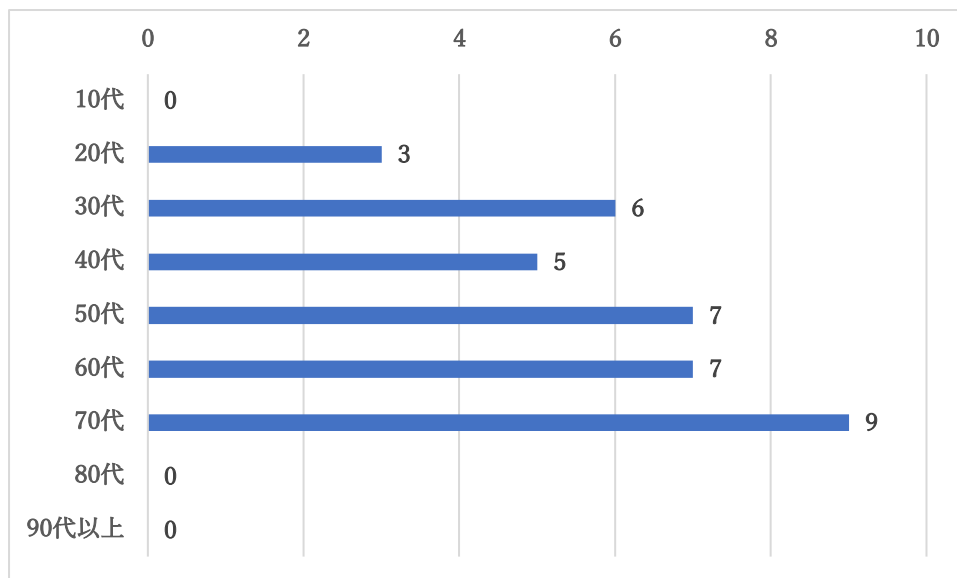
基本構想 無作為抽出区民ワークショップ アンケート結果まとめ

(1) 性別、年齢、職業

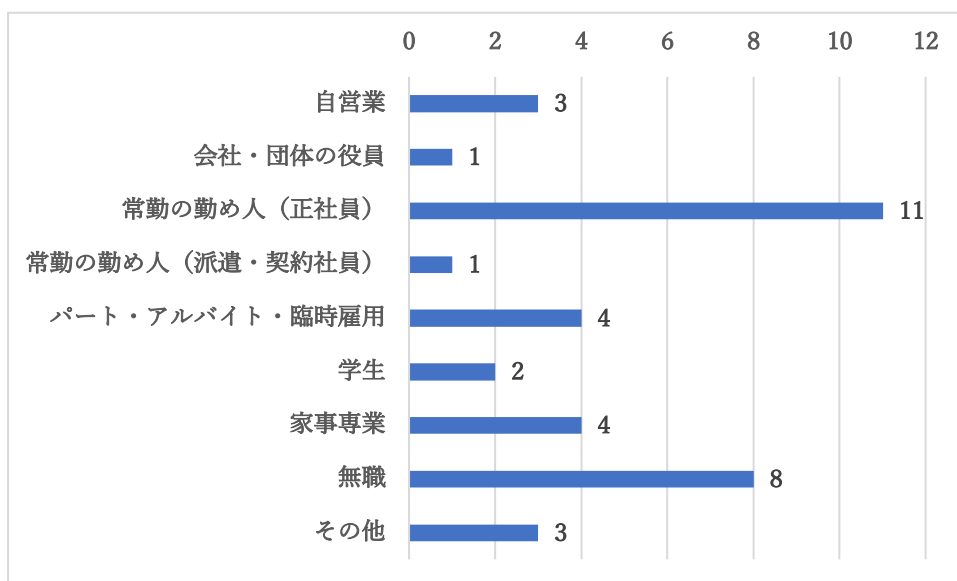
あなたの性別は、どちらですか。



あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。



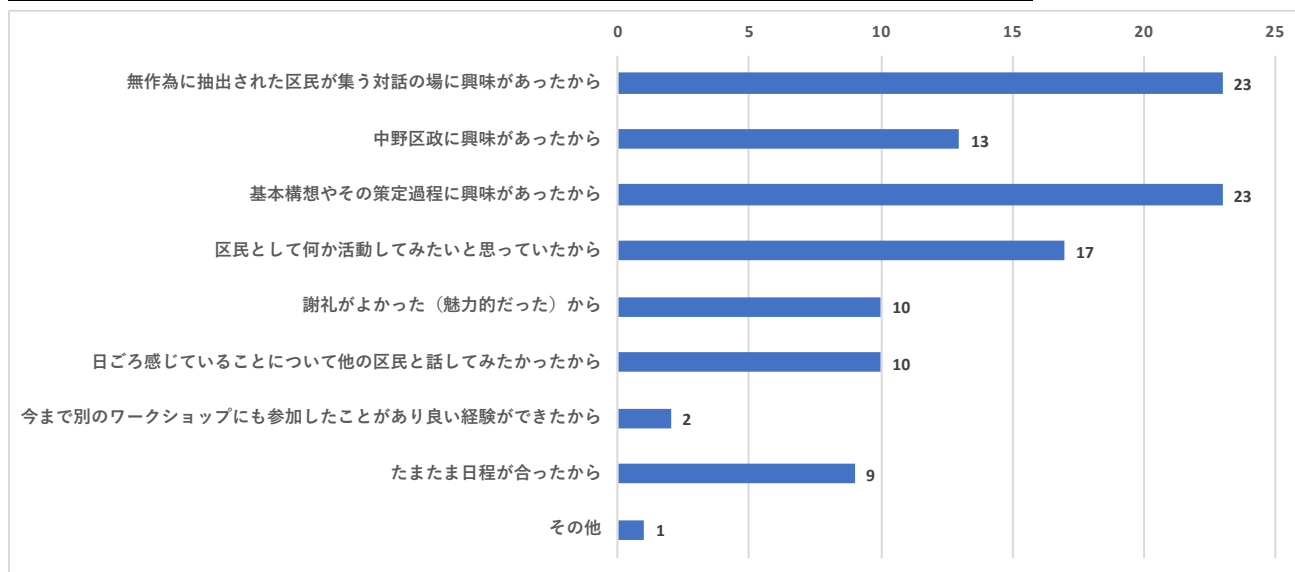
あなたの職業は、次のどれにあてはまりますか。



その他

- ・賃貸業
- ・生活保護

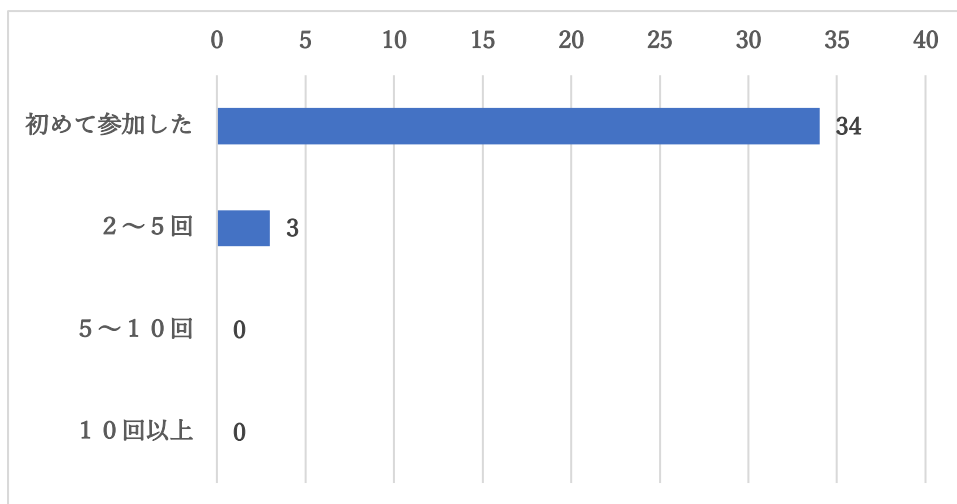
(2) ワークショップに参加を決めた主な理由を教えてください(複数回答可能)



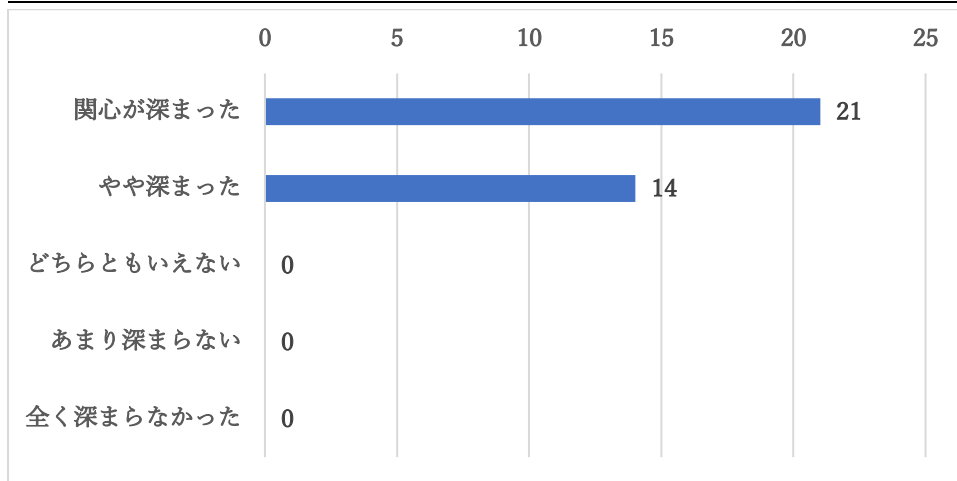
その他

- ・町会の問題点を知りたかったから
- ・区の教育福祉について日頃興味があり、基本構想は良い機会だと思いました。

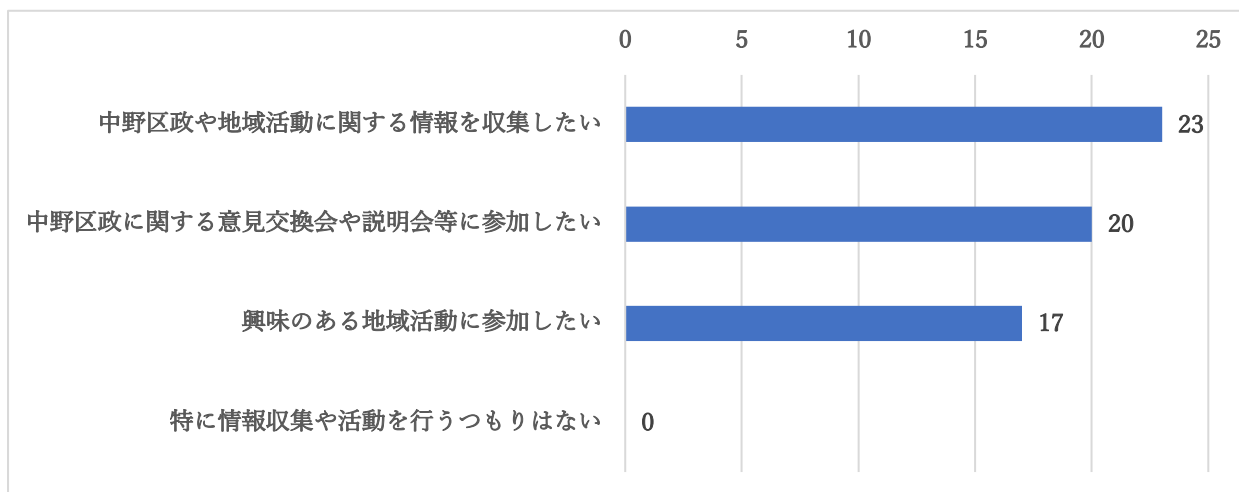
(3)これまでの中野区政に関する意見交換会や説明会等への参加状況を教えてください



(4)ワークショップに参加したことで地域や行政への関心に変化はありましたか



今後、次のような活動に参加したいですか(複数回答可能)



(5)ワークショップの満足度を教えてください(0~100%)

平均 86.1% (60~100%)

満足度の理由・感想などを教えてください

- ・幅広い区民の考え方が勉強になる。
- ・おもしろい話し合いで、区の役に立っている気持ちしてうれしかったです。
- ・各年代の方々の意見を聞いてよかった。
- ・こういう機会でなければ出会えない人と話し合いができた。
- ・時間がきついと思います。
- ・世代をこえた話ができる。
- ・現状・未来構想などを知ることができた。
- ・様々な意見を出せし、取り入れることができた。
- ・みんなが積極的に発言していた。
- ・もうちょっと下調べをしておけば、もっと有意義だったかもです。
- ・新しい知識が増えた。
- ・一つの事柄に対していろいろな視点の意見が出るのが面白く、これからの生活や仕事にも活かせると思いました。
- ・いろいろ中野区のことをわかって、良かったです。
- ・いろいろなテーマについて、他の区民の方と話せる機会があつて良かった。
- ・実際に区での仕事に携わる人の思う中野区の課題等を聞き、どのような点でギャップがあるのか、もしくは合致しているのか知りたかった。
- ・色々な話を聞くことができ、大変良かったです。
- ・ほぼ満足だから。とはいえ、なんでも100%はありえない。
- ・様々な人々の意見・思いがわかった。
- ・各種意見を聞いて、大いに参考になった。
- ・区が行なっている活動が、少しわかった。
- ・とても楽しかった。
- ・様々な世代の区民の方、職員の方の意見をお聞きすることができ、有意義だったため。
- ・思った以上に活発な意見交換が行えた。
- ・普段話すことのない方と地域について話ができ、新しい気づきがたくさんありました。

(6)ワークショップの進め方について、ご意見・ご感想などあれば教えてください

- ・とても上手だと感じました。
- ・基本的にはよいと思います。
- ・人によって意見が様々で面白い反面、やる気もまちまちだと感じました。
- ・ペースなどはちょうどよかったと感じました。
- ・個人個人の考え方を十分発表できなかった。
- ・時間が短かった。
- ・初めての経験だったけれど、色々な人と対話できてよかった。
- ・初めての参加なので緊張した。
- ・TOKYO2020に向けた施策なども、区民意見を募ってはいかがでしょうか。
- ・良かった。
- ・問題ありません。
- ・進行役がいると安心する。
- ・色々な年齢の人が集まり良かった。
- ・区の職員の方々が上手に意見をまとめてくださったので、スムーズにワークショップが進んだと思います。
- ・説明がわかりやすくて良かったです。
- ・どのような形でフィードバックされるのか知りたい。
- ・基本構想に限らず、様々なテーマについて、無作為の区民の方と話をする機会があれば良いと思います。
- ・少し時間が短く感じた。話す時間がもっと多い方が充実するかもしれない。
- ・大変勉強になりました。良い経験になりました確かに対話力がアップしました。司会の方はかなり慣れていました。
- ・初めての参加でしたが楽しく参加させていただきました。
- ・進行がスムーズで、区の職員の方のサポートもあり、大変良かったと思います。
- ・年齢が高くなったのに、こういうところに参加できたことは大変良かったです。
- ・ポストイットで貼るのはよくあるやり方ですが効果的。ファシリテーター、謎な仕事。
- ・意見交換の時間が少ない。
- ・職員の丁寧な進行が光った。活発な意見交換で感動した。
- ・このような活動をもっとやってほしい。
- ・標準的であるが良いと思います。
- ・班の発表について、自主的に参加しているにも関わらず、発表者が職員の班が多いのはいかがなものか。
- ・良い。
- ・今回の方式は自然と意見が出て良かったと思います。

(7)ワークショップでは伝えられなかったご意見、その他ご意見・ご感想などあれば教えてください

- ・“自分とは違う人(LGBT、世代、障害者、外国の人)”をもっと受け入れ、理解する人が増えるといいなと思いました。
- ・全体的に良いワークショップでした
- ・各駅(中野・野方等)の近くにある区民館でワークショップが行われるともっと参加者が多いし、参加しやすいと思う。
- ・災害のため、食料の備蓄をもっと増やしたい。
- ・区のワークショップに参加して、自治体の役割や区民の役割について考えられる良い機会になりました。
- ・いつまでも中野区に住み続けたい中野区づくりに今後も期待しています。
- ・結構言えたので、それで実施できたらと思います。
- ・ワークショップを開催する前はどのように区民の意見を集約していたのか、聞いてみたかった。
- ・せっかく参加でき、興味も高まっているので、定期的に継続してこのような活動に参加できたら良いなと思う。
- ・自治・共生についてあまり意見が述べられなかった。デリケートな問題がありそうだったので。
- ・区民の意見を取り入れて下さろうという趣旨に感動です。
- ・いろいろ反映されてもっと住みやすくなったら、ずっと住んでもいいかなと思う。
- ・特養施設の増設、緊急病院の増設、特養の入居基準見直し、住民寄付の増加を募る。
- ・健康啓発をもっと積極的に。健康な人は病気を軽く見ている人が多い。早めに。
- ・基本構想にどのように関係していくことになるか知りたい。
- ・一時保育をしていただけたため参加することができました。大変感謝しております。ありがとうございました。子供も大変楽しそうに遊ばせていただきました。
- ・話しているので、書き加えることはない。
- ・区報が手に入らないので、郵送で知らせていただけたのは良かったです。